

令和8年度第1回高知県高次脳機能障害者支援地域協議会 議事概要

1 日時

令和8年9月3日（木）19:00～20:30

2 場所

高知県庁2階第2応接室・WEB（Zoom ミーティング）

3 出席者

（1）委員

宮本（寛）会長、川田委員、西岡委員、市川委員、西田委員、池委員、中本委員、田中委員、片岡副会長、中島委員、高野委員、宮本（彰）委員、和食委員、石元委員、大中委員、板橋委員

（2）事務局

障害保健支援課、NPO法人脳損傷友の会高知青い空

（3）その他

長寿社会課介護予防・地域支援室、安芸福祉保健所、中央東福祉保健所、中央西福祉保健所、須崎福祉保健所、幡多福祉保健所

4 議事に関する協議の概要

（1）高次脳機能障害者支援センター（青い空）の活動報告

- ・令和7年度の相談件数は全国並。今年度は上振れ傾向。
- ・相談方法は電話相談が最も多い。中には半日くらい対応したケースもある。
- ・医療機関からの相談は、障害福祉サービス等の地域資源の照会や地域に戻るときの支援に関する相談などがあった。

（2）高次脳機能障害者実態把握調査について

- ・転帰先に精神療養を追加する。また、回答者が区別できるように文言を整理する。
- ・郡部で初診後に高知市内の病院に転院する場合、どちらの回答をカウントするのか整理が必要。
- ・医療機関の負担を考慮すると、過去に遡る調査よりも、これからの調査（前向き調査）の方がよい。
- ・紙媒体よりもQRコード等によるデータ入力の方がよい。
- ・医療機関には多くの調査依頼が来ているので、回答していただけるよう文言の工夫を。
- ・医療機関に依頼するより、医療ソーシャルワーカーなど窓口を決めてお願いしていくことが有効ではないか。

（3）高次脳機能障害に関するニーズ調査について

- ・調査票に関する意見は、後日メールで提出していただくことにする。

（4）その他（地域協議会のあり方）

- ・実数把握も大事だが、具体的な施策の実施がなければ理念法で留まってしまう。高次脳機能障害者の方が主役になる地域づくりの展開。その実践モデルを高知県の中から具体的に

作り出していくことが大事になる。

- データの把握と合わせて、具体的な事例を地域協議会で話し合っていくことも大事。分野ごとに焦点を当てると、そこから紐づいて、データではとれない各分野の連携が浮き彫りになってくる。